

令和5年度大豆生育定期調査結果 No.1 (北上市 7月6日現在 出芽・生育)

岩手県農業研究センター 生産基盤研究部 水田利用研究室 (TEL:0197-68-4412、FAX:0197-71-1081)

1 生育概況 (表1、図1)

(1) 出芽

播種から出芽期までの日数(出芽日数)は、3品種とも平年に比べて3～4日早まり、昨年並であった。播種後の適度な降雨が、出芽が早まった要因として考えられる。

(2) 生育

生育は3品種とも旺盛で、平年に比べ、主茎長は3.4～5.9cm長く、主茎節数は0.8～1.2節多くなっている。さらに、葉面積指数は平年差+0.131～0.151高く、地上部乾物重は平年比186～205%重く、平年を大きく上回っている。

表1 7月6日現在の生育調査結果 (播種日：6月6日)

品種	年次	出芽	主茎	主茎	葉面積	地上部
		日数	長	節数	指数*2	乾物重
		(日)	(cm)	(節)	(L A I)	(g/m ²)
リュウホウ	R5年	7	13.7	6.4	0.308	18.0
	平年	11	9.8	5.3	0.167	7.9
	平年差・比	-4	+3.9	+1.1	+0.141	194%
	(参考)R4年	7	12.8	7.1	0.240	14.5
シュウリュウ	R5年	7	13.9	6.1	0.388	21.6
	平年	10	10.5	5.3	0.237	11.6
	平年差・比	-3	+3.4	+0.8	+0.151	186%
	(参考)R4年	7	14.1	7.1	0.359	19.0
ナンブシロメ	R5年	6	18.3	6.7	0.307	17.6
	平年	9	12.4	5.5	0.176	8.6
	平年差・比	-3	+5.9	+1.2	+0.131	205%
	(参考)R4年	6	15.6	7.0	0.242	12.3

*1：「平年」は平成30年～令和4年の平均値。

*2：葉面積指数はある栽培面積に存在する葉の総面積をその土地面積で割ったもの。



図1 各品種の生育状況 (7月6日撮影)

左からリュウホウ、シュウリュウ、ナンブシロメの順。

2 気象経過（6月～7月第1半旬；図2）

気温は、6月第1半旬は過去5か年の平均値（以下、「平年」と表記）より低く、以後は平年並～高く経過した。

日照時間は、6月第3半旬で平年を下回ったが、それ以外は概ね平年並に経過し、7月第1半旬は平年を上回った。

降水量は、6月第2～第4半旬は平年を上回ったが、以後は平年よりも少なかった。

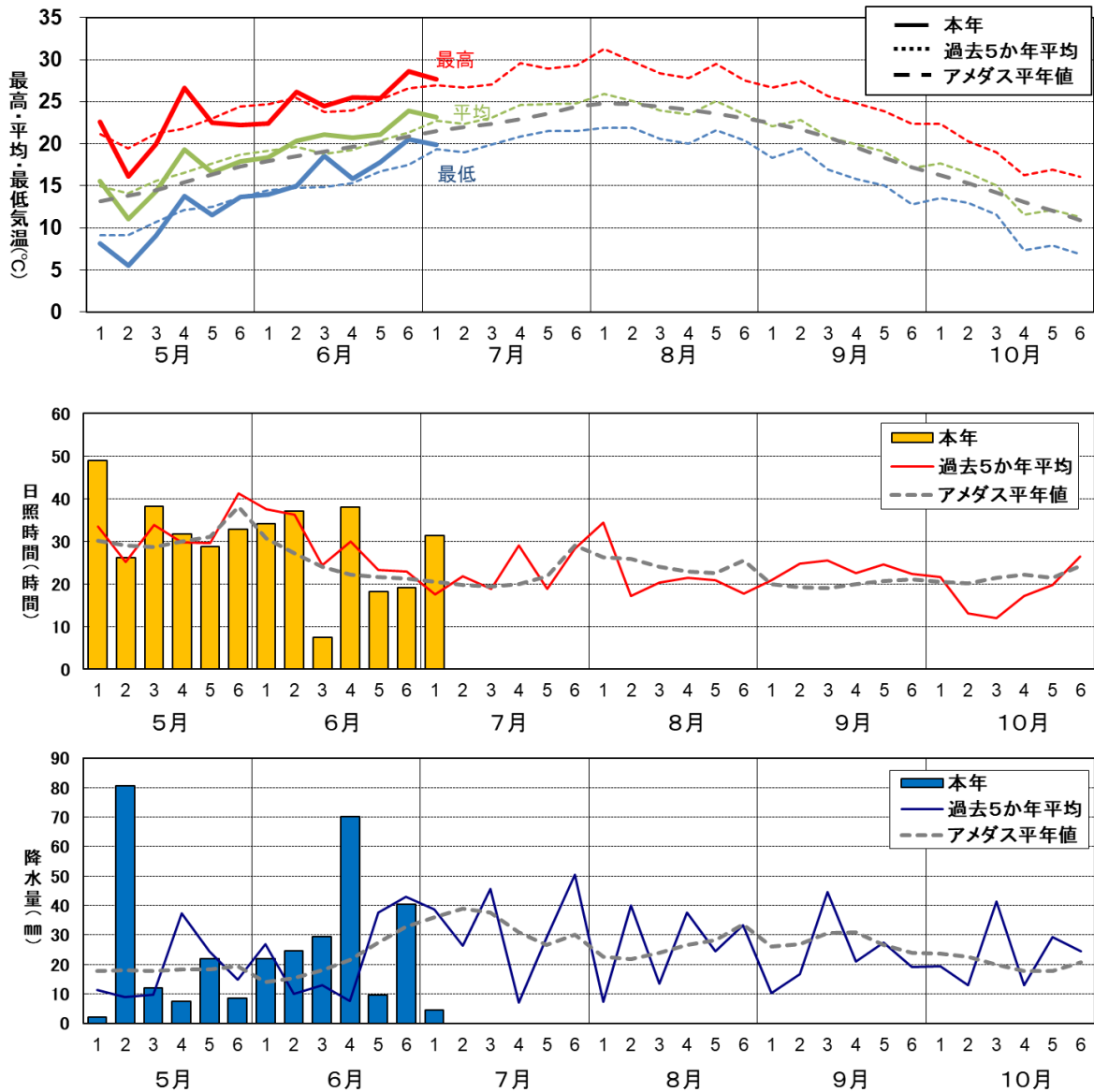


図2 気象経過図（アメダス北上、7月6日現在）

※1：「過去5か年平均」は平成30～令和4年の5か年の平均値。

※2：「アメダス平年値」は気象庁公表の平成3年～令和2年の30か年平均。

3 耕種概要

- (1) 調査場所 農業研究センター：北上市成田 標高90m 淡色多湿黒ボク土（水田転換2年目）
- (2) 播種日：6月6日
- (3) 栽植密度：9.52株/m²（畦間70cm、株間15cm、1株1本仕立て）
- (4) 施肥量（kg/10a）：N 4、P₂O₅ 12、K₂O 10、牛糞堆肥1t/10a
- (5) 雑草防除：エコトップP乳剤 600mL/10a（播種後出芽前）
- (6) 中耕・培土：7月5日
- (7) 病虫害防除：クルーザーMAXX 8mL/乾燥種子1kg（播種前塗沫処理）